



発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

熊谷デジタルミュージアム開設

10月、江南文化財センターが開設した「熊谷市 web 博物館」を引き継ぎ、市内の文化財などの情報を幅広く盛り込んだインターネット上の博物館「熊谷デジタルミュージアム」を開設いたしました。この熊谷デジタルミュージアムでは、これまでの情報に加え、郷土資料や歴史資料に関する情報を掲載し、より多彩、かつ充実した内容にしていきたいと考えております。ぜひ、ご覧ください。

熊谷デジタルミュージアムURL

<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>

熊谷デジタルミュージアム Kumagaya Digital Museum

現在の熊谷 赤一門、郷土民謡、文正制の歴史、文正制の文化、マリア

文化財マップ エリアA



第四回地域伝統芸能今昔物語

11月23日、熊谷文化創造館「さくらめいと」太陽のホールで、熊谷の各地域に根ざした歴史・文化を紹介することを目的に、市指定無形民俗文化財保持7団体と文化団体による芸能7団体及び賛助出演1団体により、第四回地域伝統芸能今昔物語を開催しました。また、同会場にて、市指定無形民俗文化財パネル展示を行いました。700名を超える入場者は、未来に向けて伝承されている貴重な文化財や、日々の稽古の成果がいかんなく発揮された芸能を堪能し、大きな拍手を送っていました。妻沼での第一回の開催以降、江南、大里を経て、熊谷で開催され、各地域を一巡した「今昔物語」。イベントに対する人々の関心の高まりを実感することができました。来年度は再び妻沼にて開催する予定です。



熊谷祇園囃子（賛助出演）

夏休み・県民の日 文化財イベント開催

夏休み期間を利用して、まが玉と土器づくりの体験教室を開催しました。まが玉づくりは215名、土器づくりは39名の参加がありました。まが玉づくりでは、キズの無い滑らかな物を作ろうと皆、磨きに熱中していました。土器づくりは、今年が初めての実施です。実物や写真を参考にしながら、それぞれ個性的な土器や埴輪を作りました。

また埼玉県民の日には、まが玉づくりを開催し、28人が参加しました。同日、国登録有形文化財「坂田医院旧診療所」（妻沼）の一般公開を行い、46人の見学者が訪れました。



土器づくり

遺跡発掘の現状—夏から冬にかけての概観

夏から冬にかけて次の5箇所の発掘調査を実施しました。

遺跡名（地域、期間、調査面積）

- ① 諏訪木遺跡（上之 9月～12月 約1,600㎡）
- ② 前中西遺跡（上之 11月～12月 約200㎡）
- ③ 樋の上遺跡（拾六間 8月 約100㎡）
- ④ 王子西遺跡（弥藤吾 9月～10月 約200㎡）
- ⑤ 杉之道遺跡（弥藤吾 11月 約66㎡）

（次頁、市内遺跡発掘情報に詳細）



諏訪木遺跡での現場見学会（10月）

市内遺跡発掘情報

諏訪木遺跡「弥生時代の方形周溝墓群・中世の遺構等を確認」

発掘調査では、弥生時代中期後半以降の方形周溝墓群、古墳時代前期・後期の竪穴建物跡、終末期の古墳、中世の溝跡・溜池状遺構・井戸跡、近世の井戸跡等を確認しました。弥生時代の方形周溝墓は5基検出し、全長17m程のものを含まます。中世の溝跡は区画の可能性があり、青磁・白磁・かわらけ等が検出し、近接する溜池状遺構からも板碑・かわらけが出土していることから、屋敷跡であると推察されます。これは『新編武蔵野風土記稿』に記載された、成田一族の秋葉七郎の館跡である可能性があります。



方形周溝墓の溝底

前中西遺跡「水辺の祭祀場と考えられる住居跡を発見」



出土した土師器・高坏

発掘調査は、上之土地区画整理事業地内、熊谷総合病院の東側において実施しました。調査では、弥生時代から古墳時代にかけての住居跡6軒のほか、水路と考えられる大きな溝跡2条などが発見されました。古墳時代中期の住居跡では、土師器・高坏（たかつき）が8個体以上出土したほか、壺や柑（かん）という土器もみられました。これらは神様に供物（くもつ）等を奉げる器として祭祀色が濃いもので、近接して幅広い溝跡が発見されていることから、この住居跡が水辺の祭祀場としての機能をもっていたものと考えられます。

樋の上遺跡「奈良・平安時代の竪穴住居跡を確認」

市内拾六間の樋の上遺跡では、幼稚園校舎建設に伴う緊急の発掘調査を実施しました。今回の調査では、奈良・平安時代の竪穴住居跡が1軒、溝跡1条、時期不明の土坑2基、ピット等が見つかりました。樋の上遺跡では、これまでの調査により古代の大規模集落が広がっていることが分かっており、今回の調査はその一端を明らかにすることができました。



竪穴住居跡の発掘調査

王子西遺跡「平安時代の鍵が出土」



発掘調査では、平安時代（10世紀前後）の住居跡3軒と、掘立柱建物跡1棟、溝跡等を確認しました。溝跡からは、鉄製の鍵や矢の先がY字状になった鉄鏃が出土しています。鍵は、倉庫などの建物につけられた施錠具と考えられ、本遺跡は、一般集落とは異なる性格の集落であったことが推測されます。

住居跡の検出状況

杉之道遺跡「平安時代・近世の溝跡を確認」

発掘調査では、平安時代と近世の溝跡3条を確認しました。また、本調査地点は、部分的に、地表下80cm程の深さに層厚20cm程の砂が堆積しており、そこから亀裂に添って砂が吹き出ている状況が確認され、中世以降の地震による噴砂の痕跡（右写真）と考えられます。



連載 くまがやの古墳群

② 奈良古墳群

奈良古墳群は、主に中奈良地区、妻沼低地の自然堤防上に所在する古墳群で、かつては多くの古墳が所在したと推察されますが、前方後円墳・横塚山古墳（市指定史跡・県選定重要遺跡：右写真）が確認されているだけです。この古墳は、国道407号線道路改良工事により後円部の一部が失われていますが、全長30mの墳丘が良く残る古墳です。発掘調査により出土している円筒埴輪の特徴から5世紀後半に造られたものと考えられます。



文化財センター通信

わが街熊谷遺跡めぐり(箱田氏館跡・権現坂遺跡)

江南文化財センターにて、テーマ展「わが街熊谷遺跡めぐり」を開催しています。この機会にぜひご覧下さい。

第10回テーマ展：箱田氏館跡（展示期間：平成23年11月12日～平成24年5月11日）—平成23年1月～3月にかけて実施した発掘調査において確認された、古墳時代前期（約1,700年前）の前方後方形周溝墓から出土した、土師器（壺・甕）を、写真・解説パネルと共に展示しています（右上写真）。

第11回テーマ展：権現坂遺跡（展示期間：平成23年12月2日～平成24年6月1日）—平成元年10月に実施した発掘調査において確認された、縄文時代中期（約4,300年前）の住居跡から出土した縄文土器・石器を、写真・解説パネルと共に展示しています（右下写真）。



星溪園イベント—俳句入門講座・お茶に親しむ会



お茶に親しむ会（熊谷西高校茶席）

星溪園において、毎年恒例となっている俳句入門講座と、県民の日・お茶に親しむ会を開催しました。9月から11月に掛けて行われた俳句入門講座では、共催である熊谷市俳句連盟の会長・野本四朗氏が講師を務め、句会形式の学習を通して、充実した教養の場を提供することができました。

また、埼玉県民の日である11月14日、立正大学裏千家茶道部、熊谷女子高校茶道部（表千家）、熊谷西高校茶道部（江戸千家）の協力により、お茶に親しむ会を開催しました。天候にも恵まれ、約200人が来場し、日本文化を代表する「茶道」の趣を味わっていました。

市指定天然記念物「くろがねもち」説明標示の設置

8月末、市内肥塚三丁目地内において市指定天然記念物「くろがねもち」の説明標示を設置しました。「くろがねもち」は、モチノキ科モチノキ属の常緑高木です。5月から6月に掛けて淡紫色の花を咲かせ、秋には小粒の赤い実を多く実らせます。葉の表面にはつやがあり、楕円形で深緑色です。指定されている樹木は、昭和36年に指定され、現在は樹齢三百年以上を数えています。



文化財探訪 斎藤別当実盛公遺跡探訪遊歩道—実盛公ゆかりの地をめぐる

旧妻沼町は、昭和53年に、妻沼聖天山の開創800年を記念して、開祖とされている斎藤別当実盛公のゆかりの地を巡る「斎藤別当実盛公遺跡探訪遊歩道」を創設しました。その後、平成8年にリーフレットが作成されるなど、注目を集めてきました。この遊歩道は、歓喜院貴惣門を始点として、歓喜院聖天堂、歓喜院本坊、氷川神社（弥藤吾）、斎藤塚（弥藤吾）、実盛塚（西野）、長井神社（西野）、椎の木（ハツ口、長昌寺）、大我井の杜（妻沼）までの文化財や寺社などをめぐる全長約8kmのコースであり、その他にも寺門静軒が開講した塾舎があった「両宜塾跡」や、善光寺式の「板石塔婆」などの指定文化財を目にすることもできます。



現在でも楽しむことのできる遊歩道のPRに向けて、リーフレットをリニューアルし、熊谷デジタルミュージアムで公開する予定です。コースについて詳しく知りたい方は、江南文化財センターまでお問い合わせください。妻沼の歴史や風光明媚な景色を楽しむことのできる遊歩道を探訪してみたい方はいかがでしょうか。

文化財コラム 古代との遭遇・第8話

鹿形埴輪と猪形埴輪－女塚2号墳－

「これ馬じゃないかねー」という作業員さんの声に振り返ると、確かに馬形埴輪が横に倒れた格好で出土していました。「すごいね。胴体から足まで一頭分が揃っていらさうだから、ていねいに進めてね」との監督者の声に、「こりゃ人の顔だよ」、「男かねえ、女かねえ」、こんな会話が続く中で作業が進められていくと、馬形と馬を曳く人物の埴輪が続々と出土したのです。これは、女塚1号墳に隣接した女塚2号墳の墳丘部北面の形象埴輪群の中での話です。

さらに周りを掘ると、顔は口先をやや細くし、口の両側に円形の切込みが入られた動物埴輪がみつかりました。眼はやや細目を開けられ、後方には両耳が上向に立っていました。耳の後ろには角が立っていた様子が伺えます。鹿である可能性が高くなってきました。首をやや左にかしげ、お尻に至る流線型を見ればまさしく、愛らしい鹿形埴輪（上写真）であることが分かりました。

また別の位置からは、半月形に二つの穴がけられた埴輪片と、眼がどんぐり形の動物が出土しました。「こりゃ豚だよ」という意見が多かったのですが、口の端をよく見ると両側の同じ部分に欠損した跡が見え、ここに牙が付いていたことが推察できました。また首の後ろ側の中央にも縦に剥離した部分があり、たてがみの跡であることが分かり、この埴輪が興奮した猪形の埴輪（下写真）であることが決定的になったのです。猪は、当時身近な動物であったと思われ、古墳上での儀式を表現するため作られたと考えられています。出土後、鹿形埴輪と猪形埴輪は共に修復され、大切に保管されています。



星溪園楽しいお茶会のご案内

日時・期間	場所	席主（流派）
2月 5日（日）13時～16時	立礼席	前嶋宗和（江戸千家）
2月19日（日）13時～16時	星溪寮	中村宗千（江戸千家）
3月 4日（日）13時～16時	立礼席	鎌塚宗千（江戸千家）
3月18日（日）13時～16時	星溪寮	樋田宗靖（表千家）



編集後記

平成23年12月16日、東京国立博物館にて無形民俗文化財研究協議会「震災復興と無形文化一現地からの報告と提言」が開催されました。報告の中で特に印象的だったのは、津波の被害を受けた釜石で受け継がれている「虎舞」、その保存会長が語った「家族や友人を失った人は多くいる。家も無くなり、楽器や道具も失ってしまった。けれども、虎舞は私達の中で生き続けている。」という言葉でした。そして、今年も虎舞は縮小しつつ各地で演じられたそうです。このことは、伝統芸能としての文化財が有する一つの希望であると言えます。復興のために文化がどのような役割を果たしうるのか考えながら、本市における「地域伝統芸能今昔物語」の可能性を信じ、事業を運営していく所存です。



発行：平成23年12月25日

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話 048-536-5062 FAX 048-536-4575

メール c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

ホームページ：文化財の紹介、埋蔵文化財の取扱方法、「BUNKAZAI 情報」カラー版などを豊富に掲載

「熊谷デジタルミュージアム」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>

「熊谷市の文化財」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/>